「落ち着け！、考えろ焦るな！、絶対に思考を放棄するな！！」←主人公の思考。

しばらくして主人公の竈門丹次郎に、先輩を殺した鬼：アカザと再び戦う機会が訪れました。
とてつもない修行をしたにもかかわらず、その戦いにおいても劣勢を強いられます。
人間は、深い傷を負えば死にますが、鬼は深い傷を負っても瞬時に再生します。
トカゲの尻尾みたいに切られてもすぐに生えてきます。

アカザ（猗窩座）

ここで！！鬼になりたいと思った人！
「ハイ！ハイ！ハイ！」←松野
ただ、鬼の食料は人限定、心も鬼にならなければいけません。断念。。。 ＿|￣|○ ｶﾞｯｸﾘ
話をもどし、
鬼の弱点は、太陽の光と首だけですが、この戦いは夜、しかも屋内、なので太陽の光は届きません。
鬼は首だけ守ればいいわけです。
「落ち着け！、考えろ焦るな！、絶対に思考を放棄するな！！」
この言葉は、アカザとの絶体絶命の危機において、必殺の一撃をアカザにどうにか当てたい！と焦っているときの主人公の思考です。

今の時代は、情報量が多く、社会にでるとやることいっぱい、生活していくのも楽じゃありません。
家族がいれば養うためになおさら大変です。
しかも今は、コロナで大変な時期になっています。
がんばってるのに思うように事がが運ばず、気持ちだけ焦ってしまいます。
こういうことが続くと自信を失い自分自身に失望してしまう。
そして未来が見えなくなってくる。

火渡り
実際は熱く、我慢してるだけらしい。

物事がうまくいかない時、それを打ち破るには、考えることを放棄しないこと。
思考を放棄すると偶然がおきないと事態は好転しません。
ただ、考えることが嫌になるほど疲れていることもあるので、しばし休憩が必要な時もありますが、基本何もせず期待するだけでは時間が経過するだけです。

そして、悲しみや怒りで冷静さを失っている状態で考えると、思考は
パニック状態なのでなかなかいい答えはでてこないもの。
焦らず冷静に考えれるように心を落ちつけることが必要です。
混乱していると、押せば開くはずのドアを引いてばかりいて、開かないということも起こります。
大切なことは、焦る気持ちがあるときほど、問題を一歩引いて客観視し、冷静に落ち着いて考えること。

主人公は、焦る気持ちを抑え、亡き父との会話を思いだし、殺気を抑え無心のまま攻撃することで攻撃が入りやすいことを思いだしました。
その一撃が鬼のアカザの首に入り、勝利をおさめることができました。

参考図書：「鬼滅の刃」折れない心をつくる言葉。

以上。